

# GSway

ともに歩み、ともに進む

3  
Mar. 2018

03 | 特集

強みを活かしてお客様の元へ



02 | 私たちの目指す姿 グローブシップ株式会社 専務取締役伊藤克己

07 | 技術・品質マイスターへの道③

08 | グループ会社紹介

10 | NEWS&TOPICS

12 | 日本史の中のスーパーフード

戦略FMパートナー  
 **GLOBESHIP**

「戦略FMパートナー」として  
既存業務を見直し、  
より効果的な提案をしてまいります



専務取締役  
伊藤 克己

日頃より、グローブシップをご愛顧いただき、ありがとうございます。私どもグローブシップ株式会社は、現在の体制となつて、この4月に4年目を迎えることができました。

昨年は当社グループの全社員が業務を遂行していくうえで遵守すべき事項をまとめた「グローブシップウェイ (GS WAY)」を策定し、現在、その浸透に一丸となつて取り組んでいるところでございます。これにより、お客様により品質の高いサービスを提供すべく、各現場、そして各個人の技術の向上に努めている次第です。

私どもの行動理念は「お客様の戦略FMパートナー」であることです。先の「GS WAY」もその実現のための活動の一つですが、一方でFMは外資系の名だたる企業が先行しているのも事実。同じことをやったところで、果たして、本当にお客様のお役に立てるのだろうか。お客様にとって、グローブシップの持つ強みとは何なのか——私どもは考えました。その答えは、全国で何千というビルの管理をお任せいただいていること。そして、さらにそこで培った設備管理や清掃、警備をはじめとした専門知識を持つことです。当社はこれらの「強み」を活かし、この4月からさらに一歩進めたサービスを展開してまいります。

具体的には、既にお付き合いいただいているお客様に対する、より効果的なFM提案を積極的に行ってまいります。例えば、警備では人を配置して行う仕事が多いのが現状ですが、本当にそこに必要なかを再検証します。フラッパーゲートの導入や、タブレットを活用したシステムなどで省力化ができないのか。可能ならば、人員を削減できるので、お客様のコスト削減につながります。まずは、こうした既存業務の見直しを行うことで、お客様のメリットとなる提案を積極的に行っていきます。

また、ビル管理業界では、物件を各現場が担当しており、その各現場が有機的な繋がりを持っていることはまれです。そのため、同じお客様の複数ある物件が総合的に管理されず、非効率な部分があるのが実情です。当社では今後、そうした業界の通例にも見直しをかけ、IoTなどの技術を活用することで一元管理ができるよう準備を進めています。全国のビルを繋ぎ、電気・ガス・水道といったエネルギーを一元管理すれば、同規模のビルの比較対象ができ、効率的なFMが可能となります。

当面は既存業務の見直し・提案からのスタートとなりますが、今後のグローブシップのサービスにご期待ください。

## 強みを活かしてお客様の元へ ～新メニューラインナップで積極提案～

グローブシップがひと筋に目指す「戦略FMパートナー」とは——

お客様に対して、具体的にどんなことができるのか。そこで、既存のサービス内容を棚卸しし、改めてビル建物を資産管理する視点からテーマ別に分類、当社がご提供できるメニューの全容を紹介します。

私どもは、強みを活かしお客様に分かりやすい形でタイムリーにサービスをご提案するFMパートナーへと、一歩ずつ生まれ変わってまいります。

図1 グローブシップのサービスメニュー



### テーマ別にメニューを整理 サービスの在り方を見直す

グローブシップでは、現在約6,000社の企業様にさまざまなサービスをお届けしています。しかしながら、全てのお客様に対して当社のサービスラインナップを

広くご紹介できていないことも事実です。

そこで、もう一度原点に立ち戻り、当社で取り扱う既存のサービス内容を棚卸しし、メニューの整理をいたしました(図1参照)。

当社では、「快適環境創造企業のリーダーになる」というビジョ

ンを掲げていますため、まずサービスの基盤には「環境づくり」を据えました。これによって全てのサービスメニューは、「一歩先ゆく環境づくり」「地球にやさしい環境づくり」「安全・快適な環境づくり」の3つの考えを根幹としています。



さらに、お客様のビル建物資産を環境ソリューション、ライフサイクルソリューションなどFMの面から捉えた6テーマに分け、個別のサービスメニューを落とし込みました。

概念図の中にご覧いただける一つひとつのサービスメニューは、当社が現在ご提供しているものばかりです。中には初めてご覧いただくものもあるのではないでしょう

か。この4月からは私どもは管理者クラスの研修を皮切りにサービスメニューを共有。特に設備部門の責任者はエネルギー管理、ファシリティコストの管理、セキュリティ管理、環境への配慮などについて広い視点で意識を強化、組織として平準化させ、既存のお客様にはできるところから提案を始めてまいります。

「何より、お客様の施設を一番理解しているのは現場責任者です。これまでより一歩踏み込んだFMの視点で貢献していきたいと考えています」と語るのは、本社営業企画部環境FM室の佐藤幸夫室長。

お客様アンケートの結果からも、「今後、グローバルシップにエネルギー管理を頼みたい」というご意見が多く寄せられたことも明らかになっています。こうした声を真摯に受けとめ、

「取り巻く環境の変化から、お客様自身も『環境に配慮した会社』を目指されることが命題になってきていると感じています」(佐藤室長)

### 施設管理業務について

施設管理業務(ファシリティコストの削減)に関しては、ビル設

備・電気空調・衛生・熱源・防犯などその守備範囲は多岐にわたり、通常、当社では年間保守契約にて管理しています。

「例えば、複数の設備管理業者を統合して当社に一括して発注いただくことで、ファシリティコストを大幅に削減できないか、という見方もできます。また保守メンテナンスの回数の見直しなども適正回数を提案していきたいです」(佐藤室長)

### エネルギーソリューションについて

エネルギーソリューションはファシリティコストの削減の一部ではありますが、当社では特に省エネルギーについて重点的に取り組んでいます。

エネルギー管理業務には環境法令が必ず関連しています。代表的

なものには、省エネ法や温対法<sup>※</sup>などがあり、それぞれに努力目標が掲げられています。はじめからそうした数値目標が前提とされている場合が多いのですが、全国を通じて一律ではないため、中には法の規制にあたらない物件もあります。

『『定期報告書の提出義務の有無』によって、現場担当者の意識に差が生まれないよう、認識を平準化することが今後の課題と捉えています」(佐藤室長)

エネルギーソリューションでは「エネルギー見える化対応」「省エネ診断コンサルティング」など、まずは、お客様とともに削減目標を共有して推進いたします。そして、お客様にとっての戦略FMパ



### 用語解説

**省エネ法**——省エネ法は、正式名称を「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(昭和54年制定)といい、管轄は経産省の資源エネルギー庁です。東日本大震災後の電力需給の逼迫に直面したことから燃料、熱、電気について一層の合理化が必然となり、平成25年に改正されています。規制対象は、①工場等(工場又は事務所その他の事業場)、②輸送、③住宅・建築物、④機械器具等(エネルギー消費機器等又は熱損失防止建築材料)です。

**温対法**——温対法は、環境省が管轄する「地球温暖化対策の推進に関する法律」(平成10年)のことで、京都議定書改正に伴い、平成18年4月からは、温室効果ガスを多量に排出する者(特定排出者)に、自らの温室効果ガスの排出量を算定し、国に報告することが義務付けられています。

※他にも、東京都には「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」通称、環境確保条例もあります。

ートナーを目指します。

平成28年からは低炭素社会の実現に向けて、業務用等建築物については「エコチューニング」と呼ばれる、設備機器・システムの

適切な運用改善を環境省が主導する形で行われ始めています。

そこで、既存のお客様にもぜひご検討いただきたい事例を以下に紹介いたします。

## 運用改善についての事例3選

### 事例1 設備投資費ゼロ 外気の空調負荷の抑制

省エネルギーにポイントを絞った、設備運用の見直しのシミュレーションです(図2：次ページ)。本提案は、建物への外気導入量を抑制し、温度調整のロスを少なくすることを目的としています。例えば、冬場では外気の影響が大きく室内を20度に保つには相当なエネルギーが必要になりますが、

外気導入量を減らすことで、余計な光熱費を抑えて省エネルギーにつなげることが可能です。シミュレーションでは1系統(1フロアを4分割したうちの一区画)の結果につき、これをビル全体で展開すると、大きな効果を得ることができます。もちろん、夏・冬場など外気の熱含量(エンタルピー)の差によって、効果の幅には変化があります。

この運用改善のメリットは、ビ

ル内に取り込む風量を変更するだけなので投資費用はゼロという点。そして、館内の利用者様にご負担をおかけすることなく実施できる点も大きい。ビル管理法(建築物における衛生的環境の確保に関する法律)では、良好な室内環境を保つため、居室内の二酸化炭素の含有率は、1,000ppm以下という基準があります。また、ビル建築時には設計風量が決まっているため、設計当時のままの運用をさ

### Comments



営業企画室  
環境FM室主査  
藤井 政宏

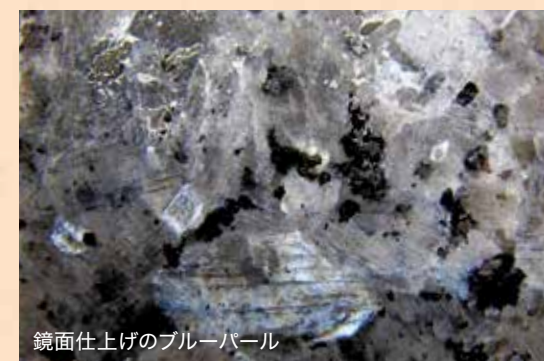
弊社では全社一丸となって「戦略FMパートナー」の実現に向けて進んでいますが、まだまだ道半ば。現在は、お客様にとって満足の高いFMを提供できるよう、課題点を整理しながら仕組みやルールを構築し、足場を固めているところです。私自身、これまで現場の副責任者として設備管理を含むFM関連業務の仕事を経て、昨年7月から環境FM室の担当となりました。一番重要と捉えていますのは、お客様との信頼関係です。私どもは「ビル管理業」については歴史も長く、信頼いただいている自負がありますが、FM業務、つまり「お客様のビル建物を資産として総合的に管理する」となると、これからの部分も大きい。自社の業務効率化を見直したり、現場でのトライアルを積極的に実施したりしながら、全国展開できるよう調整しています。こうした新しい仕事への挑戦に日々やりがいを感じています。

## 壁材、床材に宝石が使われる!?

## さまざまな特徴を持つ“長石”に注目

安全品質推進部  
清掃品質課課長  
**鈴木 悟**

2013年「ビルクリーニング科」(技能士コース)教科書を執筆。2016年厚生労働大臣感謝状(職業能力開発関係)受賞。現在、全国ビルメンテナンス協会専任講師・検定委員兼務。



古くから、「自分の生まれ月の宝石“誕生石”を身に付けると願いが叶う」という言い伝えがあります。例えば6月の誕生石は「真珠」がよく知られていますが、これとは別に「ムーンストーン」という宝石もあります。和名では「月長石」と呼ばれ、眺める角度で月のように青白く光るため、この名前が付いたともいわれる神秘的な石です。ムーンストーンは「悪霊を払い、予知能力を高め、ストレスを和らげる」と信じられているようですが、私はまだ身に付けたことはありません。

また海上において、闇夜を照らす月の光は船の位置や方向を知るために欠かせないことから、ムーンストーンは航海のお守りとしても大切にされてきました。古代ローマの博物学者プリニウスの著書『博物誌』には、ムーンストーンが光を特徴的に反射させることから、「月の満ち欠けに従って大きさが変化する」とも記され、昔から注目を集める宝石の一つといえます。

このムーンストーンは、そもそも「長石」という鉱物の一種です。長石は床や壁面の素材としてよく利用される御影石(花崗岩)にも含まれています。しかし花崗岩に含まれる長石は白色やピンク色をし

ており、青白くは光りません。

しかし、床や壁面をよく見ると、たまに宝石に分類されるムーンストーンが混ざった石材が施工されている場合があります。それが「ブルーパール」と呼ばれる石材です。灰色のブルーパールは、一見、黒御影石にも間違えられますが、よく見るとキラキラ光る長石が含まれているのが特徴です。

長石にはさまざまな種類があり、陶器やガラスの原料にもなります。御影石(花崗岩)の主成分中では石英の次にモース硬度が高く硬い鉱物です。

さらに、長石でカリウム(K)を多く含むものは正長石と呼ばれます。ナトリウム(Na)が多いものを曹長石、カルシウム(Ca)が含まれるものを灰長石とそれぞれ呼んでいます。各成分の中間種類の長石もあります。

長石は、産地によって構成成分の種類と量比も違うため、ブルーパールはノルウェー産のものを指し、鉱物名ではラルビク(Larvik)といいます。カナダ産の長石はラブラドル(Labrador)といい、虹色に光ることが特徴です。

1990年代、国内ではブルーパールをぜいたくにも床面や柱、店舗のカウンターなどに好んで使った時期がありました。今でも、東京駅の新幹線ホーム壁面や、同駅改札口付近の柱の一部、りんかい線の大井町駅のホーム床面の一部に見ることができます。

鏡面仕上げのブルーパールを見てみると、見る角度によって月長石部分が、LEDライトのように輝くさまは美しいものです。磁鉄鉱(マグネタイト)などツヤのある成分も混じっているため、発色も大変きれいです。ビル外装などにも多用されてきたため、他にも残っている場所がたくさんあります。ぜひお出かけついでに見つけてみてください。

図2 24時間運転 外気空調負荷の抑制(1系統分)

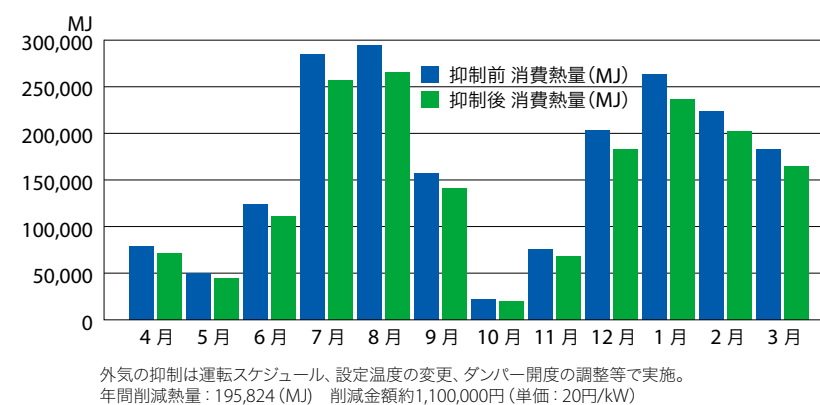


図3 月別電力使用量比較

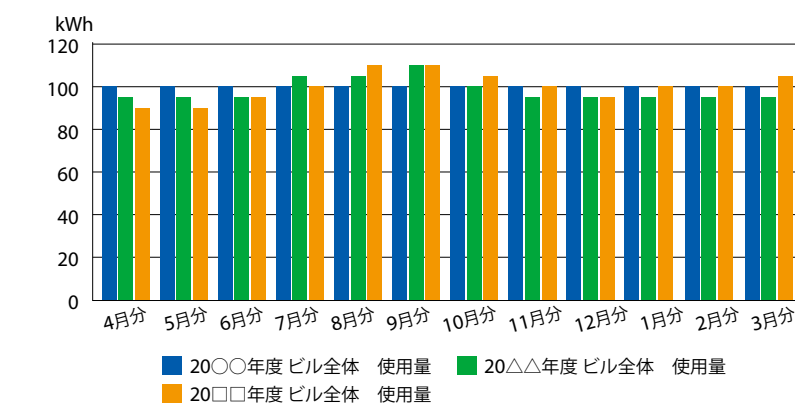
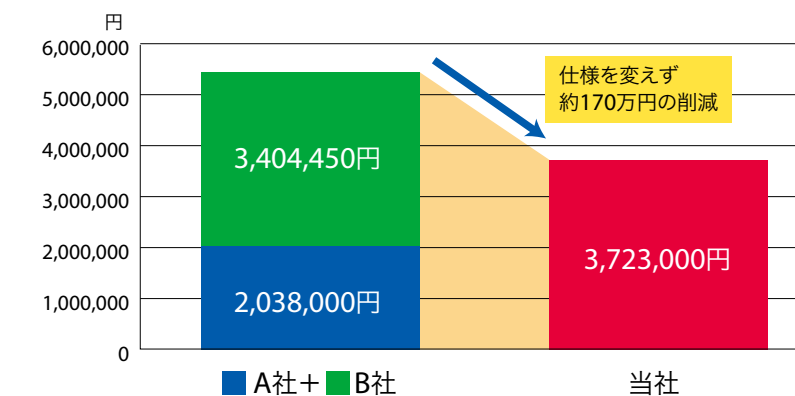


図4 協力会社見直し比較



れている場合に改善の余地があると考えられます。

## 事例2 「エネルギー管理表」を利用 基礎値をお客様と共有

建物のエネルギー管理についての契約開始時には、まず年間のエネルギー使用量をお客様と共有し

ます(図3)。これは前年同月をベースとして比較し、当月値を分析するためです。エネルギーの管理項目には、電気、ガス、液体燃料がありますが、多くのビル建物では電気だけという所が多くなっています。お客様も月次の数値について、テナント数の増減か、気

候的な要因か、運転時間かなど変動原因を探りながら、把握。最も効率の良い運転するためには何が必要かを月次単位でお客様と管理責任者とが話をしていくことをまずは目指します。

具体的な削減目標については、当社がプロとして最適な提案をし、戦略FMパートナーとしてお役に立ちます。

### 事例3

#### GSに契約内容を集約 FM管理コスト抑制

工場施設での管理業務を受託していた2015年の事例です(図4)。それまで業務内容別にメーカーA社、B社へと部分発注されていたものを当社にまとめて発注いただくことで、コスト減が可能となりました。例えば、工場では臭気管理や排水処理、排気量、騒音などに細かな社内基準やISO基準値が設定されています。これらを全て管理する業務が必要となります。グローブシップには全国にGS協力パートナー会がありますので、さまざまな対応が可能です。今回は、長期にわたり見直しをされてこなかったことに着目し、契約更新のタイミングで当社を窓口とする一本化をご提案。全体のFM管理コストの低減につながりました。またコスト抑えるだけでなく、管理窓口も統一化され請求書も1本化できます。

そしてこれに加え、保守メンテナンス回数の見直しをご提案することが可能です。



# プロアクティブなIFMの提案で 企業価値の向上に貢献

グローブシップでは、事業領域を拡大しさらなるお客様への価値提供を目指して、仏ソデクソ社との合併会社「グローブシップ・ソデクソ・コーポレートサービス株式会社（以下、GSS社）」を2016年3月に設立しました。同社でゼネラルマネージャーを務める河野圭太が事業開始から2年を経た手応えや今後について説明します。

## Corporate Profile

グローブシップ・ソデクソ・コーポレートサービス株式会社  
(Globeship Sodexo Corporate Services K.K.)  
代表取締役CEO：枝川裕一郎  
代表取締役：ジョンポール・ディメッシュ  
本社：東京都港区芝4-11-3 芝フロントビル7階  
従業員数：90名(2018年3月現在)  
売上高：10億円(2018年3月期)

ゼネラルマネージャー  
河野 圭太



## 世界最大の IFMサービス提供企業とタッグ

仏ソデクソ社は、「個人や組織のパフォーマンスにおける重要な要素である、“Quality of Life (QOL)”を高めるサービスを提供する」グローバルリーダーで、売上規模も2.5兆円という世界規模の企業です。

GSS社では、外資系及びグローバル日系企業を顧客対象にIFM（インテグレートド ファシリティ マネジメント）の提供を主たる事業としています。お客様に安全で快適な環境を提供することや、効率化を最大限推進する——という基本は、グローブシップと同じですが、GSS社では特にQOLの

思想を大切にしています。

現在GSS社ではFMCG大手のP&Gや、製菓大手のファイザー等6社、17サイトで多岐に渡るサービス（図参照）を提供しております。現状ではソデクソ社からのグローバルやリージョナル契約での委託が多く、国内市場の開拓はこれからです。

IFMを展開しているGSS社では、建物管理に留まらず、お客様先の総務・人事等コア業務以外の仕事も多く受託しています。

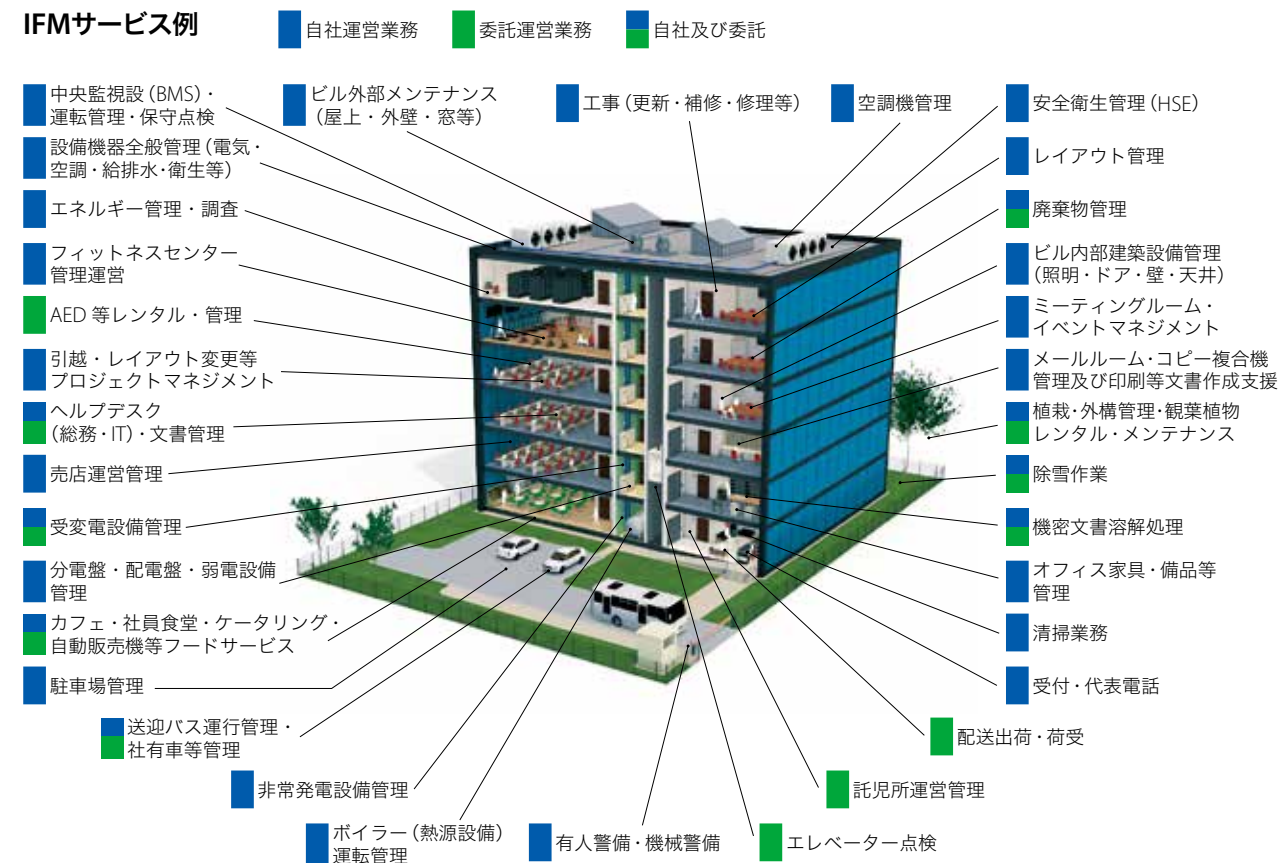
私どもでは、幅広い委託業務をSPOC（Single Point Of Contact／窓口の一本化）によってアカウントマネージャーが全てを集約することで効率化を推進しま

す。また、これまで発注先各社毎に発生していた請求書処理を一本化できるため、経理業務の効率化にも繋がります。

## デジタル化で効率化された リソースはホスピタリティ向上に

ヘルプデスク業務では、設備修理依頼、会議室予約やセッティング、宿泊予約、食事情報（アレルギーや宗教上の制限等）までさまざまな情報を専用管理システムで運用しています。システムに蓄積されるデータは統計化され、お客様も常に見覧できます。レスポンスに要した時間や出来映えはKPI（Key Performance Indicator／主要業績評価指標）として評価の対象となり、対応が悪いとペナ

## IFMサービス例



ルティ（減額）の対象になります。

また提案では、サービスのデジタル化を積極的に推進しています。例えば受付システムの場合、ホスト側の簡単な操作で来館者情報の登録ができ、来訪者は事前に送られてくるメールに添付されるQRコード等を端末にかざすだけで来館手続きが完了できます。知らせを受けたホスト側担当者が迎えに来る間に、飲物を選んでいただいたり、新製品の紹介映像を見てもらうことも可能です。工場等HSE（Health, Safety, Environment／衛生・安全・環境）面が重要となる施設では、受付の待ち時間に構内の安全ルールのご案内等にも活用できます。ま

た機密保持誓約書に端末上でサインしてもらうことも可能です。このように、受付であってもデジタル化で付加価値を提供し効率化を推進することができるのです。

## 変化する顧客のニーズに対応し、常に 最適なFMサービスを提供するために

IFMでは、顧客のFM業務を常に最適に保ち、現状に合わせ変えて行くことを目的としています。ここで言う「最適」とは契約に基づいた建物管理の履行に留まらず、施設で働く顧客従業員がその業務遂行に必要な高レベルのサービスを楽しみ、意欲を持って仕事に取り組む、その会社で働くことに高い満足感を得られている状態です。

従業員満足度を高めることで、

従業員の会社に対するエンゲージメント（愛着・快さ）が向上し、離職率を低下させ生産性を高める役割をもIFMが担っています。

今春からは、フードサービス事業も新規展開する予定です。ソデクソのグローバルでの経験を活かし、我々だからこそ可能なチャレンジを続け、タイムリーでオリジナリティーに溢れ、高い品質を兼ね備えたサービスをお客様に提供します。

また得られた成果をグローブシップにフィードバックしグループ全体でその効果を発揮できればと思います。



## 1 各出張所での具体的な取り組み、お客様の反応等を発表 第1回「GS WAYコンテスト」開催

2月28日(水)に「第1回GS WAYコンテスト」を本社9階大会議室で開催いたしました。「GS WAY(グローブシップウェイ)」は、グローブシップグループ全社員が業務を遂行するうえで遵守すべきものとして、昨年4月に策定されました。その目的はお客様により高い品質のサービスを提供するためにほかなりません。私どもは、これまで各部署のメンバーで構成された「GS WAY専門委員会」のもと、各部、支店、出張所単位で、その浸透を推進してまいりました。今回行ったコンテストもその一環で、真剣に取り組んでいる現場を評価し、他の現場への模範として示すことで当事者意識を高め、今まで以上にGS WAYを推進することを目的としたものです。

コンテストは、事前に提出された取組計画書などをもとに対象となる277出張所から25の出張所を選出。さらに、GS WAY専門委員会が19出張所に絞った後、実地調査で取り組み姿勢、他の出張所への参考になるかなどの基準から、コンテストで発表する10の出張

所を決定しました(発表にいらなかった9事業所については努力賞を贈呈)。

当日は、各20分という持ち時間の中で、各出張所ともに、どのようにメンバーがGS WAYにコミットしているのか、また当事者意識を持つための工夫やGS WAYの実行によるお客様の反応などについて発表。GS WAYの浸透が着実に進み、効果が出始めていることが分かりました。

最終的に、役員・部長・支店長・グループ会社社長からなる審査員53名がマークシートで投票し、金賞・銀賞各1、銅賞2、優秀賞5を選出。当社代表取締役社長の矢口が各出張所の健闘を称えて表彰し、GS WAY専門委員会委員長を務める常務取締役の神部が講評を行い、今後のGS WAYのさらなる推進を確認し、盛況のもと終えることができました。今後は10出張所の事例を参考に、GS WAYのより深い浸透を促していく所存です。



## 2 「GS WAY」の全5カ国語での対応完了で、より品質の高いサービスを提供 母国語への翻訳版、制作への貢献を表彰

グローブシップでは行動規範として「GS WAY」を共有していますが、全員が携行する「GS WAY解説・事例集」は日本語の他、英語版、ベトナム語版、中国語版とミャンマー語版が加わり全5カ国語での対応となりました。この翻訳版の制作に一役買ったのが当社の外国籍従業員です。中国語版には3名が、ミャンマー語版には1名が通常業務の範囲を超えて翻訳版制作に貢献、完成することができました。特にミャンマー語版は現場での円滑な業務遂行を目的に、他言語に先駆け自発的に翻訳版が作成されました。これによって、日本人以外の従業員もより深く「GS WAY」の理解が可能となり、お客様へ品質の高いサービスをご提供していく所存です。当社では「GS WAY翻訳版作成への多大な貢献」に感謝の意を込めて2017年12月、本部長表彰として各事業所で特別表彰を行いました。



## 3 ミャンマーより技能実習生が来日

2017年12月18日、技能実習生8名がミャンマーより来日しました。その後、監理団体の指定業者による1ヵ月間の法定講習の後、2018年1月19日、当社で準備した寮に入寮し、同月22日には本社8階役員会議室で入社式が行われました。入社式では、代表取締役社長の矢口より「仕事をしっかりマスターするだけでなく、日本での生活と仕事を通じて様々なことを学び、何かを自国に持ち帰って欲しい」という内容の祝辞が述べられた後、技能実習生8名の一人ひとりが日本に対する期待、仕事に対する抱負、意気込みを語りました。

入社日当日の関東地区はいにくの大雪で、技能実習生たちは雪を初めて見ることとなりました。

翌日の23日からは安全品質推進部による2週間の

研修が柏研修センターで行われ、2月5日以降、それぞれの配置現場に別れて、全員が清掃業務に従事しています。

未だ日本語の習得には課題が残るものの、分からない業務等については一人で悩まず、チームプレーで対応するなど、協力して熱心に業務に取り組んでおります。



編集後記——待ちに待ったミャンマーからの技能実習生8名が来日し、実務研修等を終え、現場に配属され、清掃技術の習得を目指して一生懸命業務に励んでいる。20代の若い彼女たちの目は今、輝いている。彼女たちは、憧れの日本に来ることができ、ビルが林立し、技術と品質が高く、人に親切な日本人が好きで、日本の全てが新鮮に映っている。そして日本で得た給与の半分以上を、苦勞かけたミャンマーの親に仕送りし、楽にさせてあげたいと健気である。これからの彼女たちが幸せで意義ある人生となるようサポートしていきたいと心から考えている。  
(管理本部長 佐藤武男)

GS way 3号 2018年3月30日発行  
発行：グローブシップ株式会社 総務部  
東京都港区芝4-11-3 芝フロントビル  
TEL.03-6362-9701

©Hiroshi Takeuchi/MarinepressJapan/amanaimages  
※本誌記事・写真の無断転載・転用・複製(コピー)を禁じます。

「人生100年」時代、**アクティブ・ハンドレッド**を目指そう！

## 其三 江戸のコンビニ食で 長生きした北斎

永山久夫 食文化史研究家



### ◆貧乏が苦にならない天才

葛飾北斎(1760-1849)の人気は相変わらずで、世界的なブームである。

生まれたのは本所(墨田区)で、幼児の頃から絵を描き、代表作の「富嶽三十六景」は天保2年(1831)、72歳の時のもの。「赤富士」の異名のある「凱風快晴」や「神奈川沖浪裏」などでよく知られ、ゴッホやモネなど印象派の画家たちに、大きな影響を与えたことはよく知られている。

その頃、北斎はすでに名も通り、収入も少なくなかった筈なのに貧乏生活が続いていた。着物は破れ、壁に穴が開いても、少しも気にならない。

画業に専念するためには、世俗などうとうしいだけだ。北斎の絵は人気があり、欲しがって大金を出す依頼人も多く、絵の礼金などは、そこら辺に放り出して置く。

米屋や薪屋などが集金に来ると、足元に転がっている、金の入った包みをそのまま渡してしまう。これでは、大金がいくら入っても、貧乏脱出は到底無理だった。好きな絵を描ければ、それで幸せだったのである。

### ◆北斎親子の食生活

家の中には、食物や料理などを包んだ竹の皮や油紙などが散らかし放題で、ごみ屋敷状態である。

晩年になって、娘のお栄が婚家を離縁となつて戻って来た。娘も父親に似て、およそ家事というものをやったことが無い。欠け茶碗などが散らばっていても、少しも苦にならない女性。離婚の原因は、画家である夫の絵があまりにも下手なので、大声を張り上げて笑ってしまったからだという。

北斎は女房運の悪い人で、何度か結婚しているが、いずれも死別。五十代半ばからはきままな独身生活。そんな生活の中に無精無類のお栄が入り込んできた。家の中のごみがいつそう増え、足の踏み場も無い。時々には飯炊き位はしたようであるが、副食は出来合いばかり。つまり、買い食いである。

江戸は出稼ぎの町で、女性が少なく独身男がやたらに多い。したがって、男たちは買い食いに依存せざるをえない。江戸後期の煮売屋について『守貞漫稿』は「菜屋(おかず屋)」の項目を立てて、刻みスル

メ、焼豆腐、こんにゃく、ごぼうなどを醤油で煮しめて大井鉢に盛り、店に棚に並べて売るとあり、煮豆の専門店もあった。

さらに、横町には棒手振りが呼び声を立てながらやってくる。

こちらは、さらに便利で、納豆、豆腐、煮豆、野菜、刺身、蒲焼き、枝豆、稲荷鮓などである。

### ◆現代でいったら、コンビニフード。

北斎親子は、江戸の町の“コンビニ料理”チョイスの達人だったのである。それでなければ、90歳まで絵を描き続けることなど出来なかつただろう。北斎は、自分の画業は110歳で完成すると、長生きを望んだが、90歳で大往生。江戸っ子流アンチエイジングの達人だったのである。

永山久夫 食文化史研究家 1932年生まれ。古代から明治時代までの食事復元研究の第一人者。長寿食や健脳食の研究者でもあり、長寿村の食生活を長年にわたり調査している。『「和の食」全史』ほか著書多数。

